湯田　哲　議員



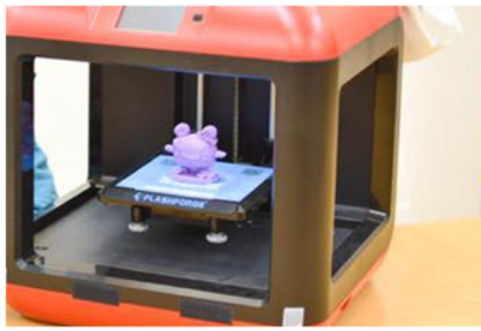
町政を問う
一般質問

小中学校へ3Dプリンターを導入し、創造する楽しさと感動、豊かな想像力の育成は

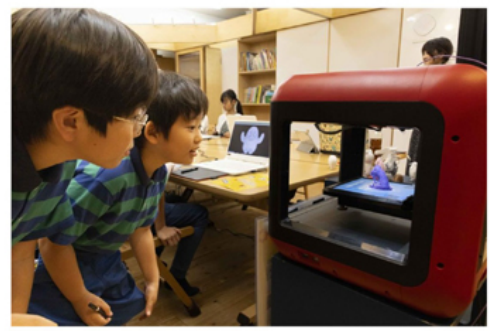
町長＝今後は先進的に取り組む自治体の活用事例などを研究していく

問　文部科学省では、小学校における図画工作の授業は、感性を働かせてつくりだす喜びを味わい、創造活動の基礎的な能力と豊かな情操を養うことを目的としています。中学校での「技術・家庭科」においても、ひとり一人それぞれの感性を働かせて何かをつくりだす、創造する喜びには変わりません。小中学校への3Dプリンターの導入は、一部の先進的自治体の学校、私立校にのみ実施されているのが現状です。本町には、いくつものものづくりの産業や会社が存在します。将来それらの会社で働く優秀な人材を育てるためにも、ものづくりによる新しい産業や起業家たちを育てるためにも、先進的取り組みとして、本町の小中学校に3Dプリンターを導入し、子供たちの創造する楽しさと感動、豊かな想像力を育成する授業を実施する考えは

町長　3Dプリンター導入により、アイデアを立体物として具体化する力が育つ「創造力の向上」自分の設計が実物になるデジタルものづくりによる「学習意欲・興味関心の向上」制作過程における失敗から学ぶ「問題解決力の向上」など、様々な教育的効果が期待できると考えています。
現在、文部科学省においては、新たな学習指導要領の審議が進められており、「技術・家庭科」が「情報・技術科」と「家庭科」へ再編され、3Dプリンターなどのデジタル加工機は、重要な教材・備品としての整備促進や環境整備が検討されており、新しい学習基盤となることから、今後は先進的に取り組む自治体の活用事例などについて、研究してまいりたいと考えております。







3Dプリンターによる授業が、子供たちの創造する楽しさと感動、豊かな想像力を育成する

【その他の質問】
・地域経済循環創造事業交付金による町の活性化は
・小惑星ミナミアイヅマチが命名登録、今後どう活かしていくのか